

4-2

検索方法の種類と特徴を知ろう

特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) 等の検索ツールを利用して、キーワード検索、FI検索、Fターム検索などを行うことができます。各々の検索方法にはメリットとデメリットがありますので、それらを知っておくことが重要です。これらの中でもキーワード検索は簡単に頻繁に利用するので、初めにマスターしてください。

● 検索方法の種類とそれらの特徴

先行技術調査を行うための検索ツールにはいろいろなものがあります。もっとも有名なものとして、(独)工業所有権情報・研修館が運営している**特許情報プラットフォーム (J-PlatPat)**が挙げられます。これは無料で利用できます。また、他にも有料の商用データベースがいくつかあります。

J-PlatPatを用いるといろいろな種類の検索方法を行うことができますが、主なものとしてキーワード検索、FI検索、Fターム検索が挙げられます。また、商用データベースを用いると引用文献・被引用文献検索なども行うことができます。

これらの検索方法の各々には、メリットとデメリットがありますので、まずはそれを理解しましょう。

なお、以下に示すキーワード検索、FI検索、Fターム検索のメリットとデメリットは、J-PlatPatを用いた場合のものです。

① キーワード検索

キーワード検索は、キーワードを入力するだけの検索です。

○ メリット

- もっとも簡単な検索方法です。

△ デメリット

- キーワードの選び方を間違えるとうまく検索できません。
- キーワードに完全に一致する文言のみが検索されます。たとえば平仮名表記と、カタカナ表記と、漢字表記とは区別されてしまいます。ただし、次の①～④のパターンについては異表記でも検索されます。①長音記号「ー」、マイナス「-」、ハイフン「・」、ダッシュ「—」、②拗音及び促音(「ア」と「ァ」、「ツ」と「ッ」、「よ」と「ょ」等)、③アルファベット、数字、カタカナの全角、半角、④アルファベットの大字、小文字。

△ デメリット

- 同義語や、上位概念・下位概念をどの程度まで考慮するかを選択が難しくなります。
- 公開特許公報の場合、1971年以降に公開されたものだけしか検索できません。それよりも古いものは検索できません。

② FI検索

FI(ファイル・インデックス)は、国際特許分類(IPC)の分類をいっそう細かく展開したものです。

○ メリット

- IPCには版があり、検索を行う場合には版の違いを無視できませんが、FIは改正があるとデータベースの更新作業が行われますので、新しいFIを用いて過去の古い文献も検索できるようになります。よってFIで検索する場合には、公報がいつごろ発行されたかを考慮する必要がありません。
- 1970年以前のデータも検索できます。つまり、十分に古いデータについても検索できます。

△ デメリット

- 検索したい技術分野にどのようなFIが付されているかの調査が煩雑です。

③ Fターム検索

Fタームとは、特許庁における審査の効率を高めるために、FIとは別の観点で付与された日本独自の分類記号です。

○ メリット

- 1970年以前の公報も検索できます。

△ デメリット

- 技術分野によってはFターム分類表が作られていないか、または公開されていません。この場合、Fターム検索はできません。
- 各出願について、適切なFタームが付与されていない場合があります。つまり、うまく検索できない場合があります。

④ 引用文献・被引用文献検索

引用文献・被引用文献検索は、特許庁がすでに行った先行技術調査の結果を利用する検索方法です。